

評価結果公表票

作成日 平成21年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0270800337
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホーム バンドー大湊
所在地	青森県むつ市真砂町7番1号 (電話)0175-28-3726
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 5人, 非常勤 9人, 常勤換算	10.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨・一部鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 9,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4)利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芳龍会千田医院(内科) 上條佐藤(歯科)
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「明るく 楽しく 元気よく」というホーム独自の理念を念頭に置き、日々、利用者の視点に立ち、個々の思いを大切に日々のケアに取り組んでいる。  
馴染みの関係を形成し、利用者が安心してサービスを開始出来るよう、事前訪問、ホーム見学、入居と段階的な利用支援を行っている。また、双方の意向に沿うよう、利用者及び家族の希望などを十分に聞き取り、話し合い、調整している。  
また、全職員が、身体拘束を行わないケアを実践しており、やむを得ず行わなければならない場合に備え、記録様式を整備するとともに、家族からの同意を得る体制を整えている。  
利用者個々のこれまでの受診状況を把握しており、かかりつけ医に受診出来るよう支援しているほか、市内に協力医療機関を確保しており、体調変化時や相談事がある場合は、いつでも相談することができる。また、受診結果については随時報告を行っており、情報の共有化に努めている。  
ホーム内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など本人の希望に添って自由に日常的に外出できる環境にある。  
災害対策として夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、いざというときに備え消防署とも連携がとれている。また、数日分の食料や飲料水等の持ち出し用の物品も準備している。

【特に改善が求められる点】

全職員で話し合い、事業所独自の理念に地域密着型サービスの役割を反映させることに期待したい。  
自己評価は、全職員の意見や気づきを取り入れて作成することで、日々のケアの振り返りの機会となることから、全職員で取り組むことに期待したい。  
外部・内部の研修等により全職員が制度について理解出来るような取り組みを期待したい。  
虐待を発見した場合における対応方法や報告の流れについてよく話し合い、取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。  
運営者や管理者は職員の質の確保と・向上に向けた育成の必要性を認識し、具体化するための方針を示すことに期待したい。また、職員が平均的、段階的に研修等を受講できるよう、年間研修計画を作成してはどうか。  
無断外出時に備え、近隣の会社や公共機関から協力を得られるよう、働きかけを行うことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に職員間で話し合い、より良いサービスの提供に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>月一回のカンファレンスで評価の活用方法やねらいなどを話し合い、全職員が理解出来るよう取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一回開催し、メンバーの出席率は良好である。会議ではメンバーから積極的な意見が出されているほか、自己評価や外部評価結果、改善策等について報告し、改善に向けた活発な話し合いが行われており、サービスの質の確保に繋げている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月お便りや広報誌などを添えて利用者の日々の暮らしぶりについて報告しており、併せて金銭管理の状況についても金銭出納帳に領収証を添えて送付し、報告している。</p> <p>面会時等において意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努め、また、重要事項説明書や各ユニット内に苦情受付窓口を明示している。家族から意見等が出された場合には、職員間でよく話し合い、日々のケアに反映させている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に住宅は少ないが、散歩等の外出時に挨拶を交わすほか、夏には町内会の協力を得て、ホーム前までねぶた運行をしてもらうなど、積極的に地域との繋がりを持つよう努めている。</p> <p>また、市内の小学生がボランティアや訪問活動に訪れるなど、ボランティア受け入れにも柔軟に対応している。尚、受け入れ時には認知症についての説明を十分に行い、利用者のプライバシー保護に配慮している。</p>
重点項目③	
重点項目④	

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念はホーム内に掲示され周知を図っている。また、毎月開催されるカンファレンスにて全職員に周知され、理念に基づいたケアが提供されるような体制づくりに努めている。</p> <p>契約時には重要事項説明書を基に事業所の方針等について丁寧に説明を行い同意を得ている。</p> <p>日常的に利用者及び職員がユニット間を行き来し、馴染みの関係を作っている。また、利用者への影響に配慮し、配置換えは頻繁に行わないようにしており、配置換えの際は、利用者・ご家族への説明と、職員間の引継ぎを十分に行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>馴染みの関係を形成し、利用者が安心してサービスを開始出来るよう、事前訪問、ホーム見学、入居と段階的な利用支援を行っている。また、双方の意向に沿うよう、利用者及び家族の希望などを十分に聞き取り、話し合い調整している。</p> <p>日々、利用者の視点に立ち、一緒に、見る・聞く・行動するなどして共感し、利用者の理解に努めている。また、畑仕事や、家事・調理などの作業を、個々の力量や好みを把握した上で、声掛けしながら一緒に作業を行い、共に暮らす関係作りを行っている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画には、日々の暮らしの中で得られる本人の希望・意向のほか、家族等の意見や、カンファレンス時に話し合った全職員の気づきを取り入れており、利用者本位の個別具体的な計画となっている。</p> <p>また、介護計画の実施期間を明示しており、6ヶ月毎に見直しているほか、状態変化時等には随時見直しを行っている。見直し時には必要に応じて家族からの情報収集や再アセスメントを実施しているほか、日々の観察や記録、面会時の声かけなど、常に把握する取り組みを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の生活歴等を背景とした個々の得意分野を考慮し、ホーム内での生活上の役割を無理なく与え、役割や楽しみごとの場面づくりを行っている。</p> <p>また、常に職員は利用者への目配りをしており、近所への気軽な外出についてもある程度自由に行動できるよう支援している。</p> <p>入居時には馴染みのものを持ち込んでもらえるよう家族などに働きかけを行っており、それぞれ、馴染みの家具などが持ち込まれて、好みに合わせた居室づくりを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく・楽しく・元気よく」というホーム独自の理念を掲げ、管理者は地域密着型サービスの役割を理解しているが、地域密着型サービスの役割を理念に反映させるまでには至っていない。	○	全職員で話し合い、地域密着型サービスの役割を理念に反映させることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回のカンファレンスにおいて理念を全職員で確認し、利用者が楽しく生活出来るよう心がけ、日々のケアを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣に住宅は少ないが、散歩等の外出時に挨拶を交わすほか、夏には町内会の協力を得て、ホーム前までねぶた運行をしてもらうなど、積極的に地域との繋がりを持つよう努めている。また、市内の小学生がボランティアや訪問活動に訪れるなど、ボランティア受け入れにも柔軟に対応している。受け入れ時には認知症についての説明を十分に行い、利用者のプライバシー保護に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月一回のカンファレンスで評価の活用方法やねらいなどを話し合い、全職員が理解出来るよう取り組んでいる。また、前回の評価結果を基に職員間で話し合い、より良いサービスの提供に向けた取り組みを行っているが、自己評価を作成する際は、全職員で作成するまでには至っていない。	○	自己評価は、全職員の意見や気づきを取り入れて作成することで、日々のケアの振り返りの機会となることから、全職員で取り組むことに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催し、メンバーの出席率は良好である。会議ではメンバーから積極的な意見が出されているほか、自己評価や外部評価結果、改善策等について報告し、改善に向けた活発な話し合いが行われており、サービスの質の確保に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者がメンバーとして入り、日々の取り組みや自己評価、外部評価結果を報告している。また、日常的に市役所へ出向き、相談や意見を聞く機会を設けるなどし、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度及び地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)について概ね理解しており、必要に応じて関係機関と連携が出来る体制が整っている。しかし、全職員が両制度について概ね理解するまでには至っていない。	○	外部・内部の研修等により全職員が制度について理解出来るような取り組みを期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修により全職員が高齢者虐待の内容を十分理解している。また、管理者は職員の日々のケア提供を観察し、虐待が起こらないように努めているが、虐待を発見した場合における取り決めが無く、対応方法を確立するまでには至っていない。	○	虐待を発見した場合における対応方法や報告の流れについてよく話し合い、取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に事業所の方針等について丁寧に説明を行い同意を得ている。また、契約内容変更時や退居時にも書面等を基に説明、同意を得ているほか、退居時には退去先の情報提供を行うなどの支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お便りや広報誌などを添えて利用者の日々の暮らしぶりについて報告しており、併せて金銭管理の状況についても金銭出納帳に領収証を添えて送付し、報告を行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等において意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努め、また、重要事項説明書や各ユニット内に苦情受付窓口を明示している。家族から意見等が出された場合には、職員間でよく話し合い、日々のケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的に利用者及び職員がユニット間を行き来し、馴染みの関係を作っている。また、利用者への影響に配慮し、配置換えは頻繁に行わないようにしており、配置換えの際は、利用者・ご家族への説明と、職員間の引継ぎを十分に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営全般にかかる助言や指導は法人本部から受けている。また、職員は研修受講後、復命書を作成し回覧することで全職員に周知している。しかし、管理者は職員育成の必要性を認識しているものの、具体的な方針を示すまでには至っていない。また、職員が平均的、段階的に研修等を受講できるよう、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	運営者や管理者は職員の質の確保と・向上に向けた育成の必要性を認識し、具体化するための方針を示すことに期待したい。また、職員が平均的、段階的に研修等を受講できるよう、年間研修計画を作成してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、法人内事業所の下北地区リーダー会議に出席するなどして、情報交換等を行っており、会議で得た情報等をカンファレンス等において周知し、情報の共有を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの関係を築き、利用者が安心してサービスを開始出来るよう、事前訪問、ホーム見学、入居と段階的な利用支援を行っている。また、双方の意向に沿うよう、利用者及び家族の希望などを十分に聞き取り、話し合い調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、利用者の視点に立ち、一緒に、見る・聞く・行動するなどして共感し、利用者の理解に努めている。また、畑仕事や、家事・調理などの作業を、個々の力量や好みを把握した上で、声掛けしながら一緒に作業を行い、共に暮らす関係作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いを大切に、それぞれの力量や意向を日々の暮らしの状況や会話などから把握している。また、利用者から十分に把握出来ない場合には、関係者などから情報収集を行い、意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、日々の暮らしの中で得られる本人の希望・意向のほか、家族等の意見や、カンファレンス時に話し合った全職員の気づきを取り入れており、利用者本位の個別具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、6ヶ月毎に見直しをおこなっている。また、状態変化時等には随時見直しを行っている。見直し時には必要に応じて家族からの情報収集や再アセスメントを実施しているほか、日々の観察や記録、面会時の声かけなど、常に把握する取り組みを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ、買い物や日帰り旅行などの外出支援を行っている。また地元の祭りなどへの参加も積極的に行い、外出支援を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のこれまでの受診状況を把握しており、かかりつけ医に受診出来るよう支援しているほか、市内に協力医療機関を確保しており、体調変化時や相談ごとがある場合は、いつでも相談することができる。また、受診結果については随時報告を行っており、情報の共有化に努めている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応に関する指針が整備されており、早い段階より利用者や家族、医療機関と随時話し合いを行い、意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々理念を念頭に、利用者一人ひとりの思いを大切に利用者の話に耳を傾けている。また、利用者の意向に沿った呼び方を行うほか、羞恥心やプライバシーに配慮しており、適切な声かけをしている。職員は、個人情報保護法を概ね理解し、利用者の個人情報について適切に取り扱っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の状態や傾向を把握しており、言動を急かすことなく希望や身体状況、天候等に留意し、本人のペースに合わせた、その時々合った柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いに応じた配慮を行うほか、個々の力量に応じて準備や調理、後片付けなどを一緒に行っている。また、職員は食べこぼしのサポートを行いながら、会話をしみつつ、一緒にテーブルで食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回を目安に入浴を促しており、利用者の意向に沿った支援をしている。また、利用者の羞恥心や負担感に配慮し、見守りや介助を行っている。入浴を拒否する場合には、無理強いすることなく、時間をずらして声がけするなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や家族からの生活歴等の情報収集により本人の希望や役割を見つけ出し、個々の現在の状況を把握した上で支援している。また、声がけを継続することにより楽しみごとを促す働きかけも行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など本人の希望に添って自由に日常的に外出できる環境にある。また、利用者等の状況に応じた日帰り旅行等も実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解しており、拘束を行わないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、経過観察等や家族からの同意について書面で記録する体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関への施錠はなく、また、居室等利用者が日常的に出入りする場所も施錠していない。職員は利用者の外出傾向を察知するよう目配りを行い、外出時は付き添っているが、無断外出時に備え、近隣からの協力が得られるよう働きかけるまでには至っていない。	○	無断外出時に備え、近隣の会社や公共機関から協力を得られるよう、働きかけを行うことに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中及び夜間を想定した避難誘導策が作成されており、避難訓練を年2回、利用者と共に実施している。また、災害時の対応について、消防署から協力が得られる体制が整っており、災害発生時に備えての非常食・飲料水を入れた持ち出し袋も用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の栄養士から指導・助言を受け、個々の好き嫌いや栄養バランスに配慮された献立となっており、一日の摂取カロリーや水分量も把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを整備し、必要に応じて見直しを行っている。また、カンファレンス時等に感染症に関する学習の機会を設け、全職員に周知を行っている。感染症の流行傾向を把握し、外部からの訪問者に対して、うがい手洗いの徹底の協力を得ている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節を感じられるように、玄関の掲示板や壁面に利用者と職員が作成した作品を飾り付けている。また、家庭的な家具を配置しているほか、一部には畳を敷くなど、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮されている。職員の声かけやテレビの音量、日射しの量も適切で、心地よく過ごせるよう配慮されている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込むよう、家族等に働きかけを行っており、使い慣れた家具などが持ち込まれている。また、行事で撮った写真や作成した作品、外出時に買った小物などを飾り、好みに合わせた居室づくりを行っている。		

※  は、重点項目。